

## 農作物共済重要事項説明書

この重要事項説明書は、農作物共済へのご加入にあたり、あらかじめご承知いただきたい重要な事項をまとめたものです。必ずお読みいただき、内容をご確認・ご了承のうえ、お申し込みいただきますようお願いいたします。ここに記載した重要事項のほか、ご契約に関する事項は「ホームページの定款や事業規程等」に掲載していますのでご確認ください。

なお、ご不明の点等がございましたら最寄りの組合支所（ホームページ内「NOSA I 宮城の概要」を参照）にご連絡ください。

重 要 事 項	詳細 ページ
<b>1 加入申し込みと共済関係（契約）の成立</b> 「水稻」、「陸稲」、「麦」の耕作面積の合計が 10a 以上を耕作する方は、農作物共済加入申込書に必要事項を記入・押印して申込、組合が承諾した時に契約が成立します。	P 3
<b>2 共済目的の種類</b> 共済目的は、「水稻」、「陸稲」及び「麦」です。	P 3
<b>3 加入方式と共済金額（補償額）</b> 加入者が選択できます。	P 3
<b>4 共済責任期間（補償期間）</b> 「水稻」は本田移植期（直播する場合にあつては発芽期）から収穫まで、「陸稲」、「麦」は発芽期から収穫までです。	P 5
<b>5 自動継続特約</b> 農作物共済加入申込時に自動継続特約申込書を提出することにより、翌年以降の年産の当該農作物共済の申し込みがあつたとする旨の特約を付することができます。	P 5
<b>6 共済事故（共済金支払対象事故）</b> 自然災害、火災、病虫害および鳥獣害による収量の減収（盗難は対象外）です。なお、水稻品質方式及び麦災害収入共済方式は、品質の低下に伴う生産金額の減少もあわせて対象となります。	P 5
<b>7 一筆全損特例（申込不要）</b> 半相殺方式、全相殺方式、水稻品質方式、麦災害収入共済方式及び地域インデックス方式加入者の一筆の全損耕地に適用される共済金算定時の特例です。※一筆方式は適用になりません。	P 6
<b>8 一筆半損特例（申込必要）</b> 加入申込の際、引受方式の選択と併せて一筆半損特例を付すことで、半相殺方式、全相殺方式、水稻品質方式、麦災害収入共済方式及び地域インデックス方式加入者の一筆の半損以上全損未満耕地に適用される共済金算定時の特例です。※一筆方式は適用になりません。	P 6
<b>9 共済金の支払額</b> 共済事故による損害が発生したときに被害申告していただきます。組合で損害評価を行い、評価結果に基づき共済金を算定します。 共済金の算定方法は、引受方式・補償割合ごとに異なります。	P 6
<b>10 損害発生のお知らせ</b> 損害が発生したときは、遅滞なく組合に連絡ください。 なお、被害申告する際の申告内容は加入方式毎に違いますので詳細ページでご確認ください。	P 8
<b>11 損害防止の義務</b> 加入した「水稻」、「陸稲」及び「麦」について、通常管理、損害防止に努めてください。これらの努めを怠った場合は、損害の額から防止・軽減できたと認められる額を差し引くことがあります。	P 8

<p><b>12 共済金が支払われない場合</b> 共済事故による損害であっても、共済金が支払われない場合があります。詳細ページで確認ください。</p>	P 8
<p><b>13 告知義務違反による共済関係の解除</b> 加入申込の際に、悪意若しくは重大な過失により事実の告知をしなかったときや、不実の告知をしたときは、共済関係を解除することがあります。</p>	P 8
<p><b>14 共済掛金不払いによる共済関係の解除</b> 契約成立後であっても、正当な理由がないのに払込期限までに共済掛金が納入されない場合共済関係を解除することがあります。</p>	P 8
<p><b>15 重大事由による共済関係の解除</b> 重大な事由により共済関係を解除する場合があります。詳細ページで確認ください。</p>	P 9
<p><b>16 経営所得安定対策の畑作物の直接支払交付金の交付申請の有無の確認</b> 麦について、共済金支払い後に共済金の返還を求める場合があります。</p>	P 9
<p><b>17 共済責任期間中の通知義務</b> 共済責任期間中に加入申し込みのときと異なる次のような事実が発生した場合には、速やかに組合に連絡願います。加入者がこの義務を怠った場合、共済金がお支払いできなくなる場合や契約を解除・失効しなければならない場合があります。</p>	P 9

## ＜農作物共済の説明書(詳細ページ)＞

### 1 加入申し込みによる共済関係(契約)の成立

農作物共済の契約は、加入申込される方が、別途定めている加入申込書兼変更届出書に、必要事項を記入して組合に申し込み、その申し込みの内容を組合が確認し承諾することにより成立します。

なお、加入申込書兼変更届出書の提出にあたっては、記入誤りがないよう十分ご留意願います。万一記入内容が事実と異なるときには、契約を解除し、共済金の支払いを免責する場合があります。

加入申込書兼変更届出書の提出後、作付けを変更する場合や、記入内容の誤りに気付いた場合は、速やかに組合までご連絡下さい。

また、申込にあたり耕作する農作物共済の全てでないときは申し込みの承諾を拒む場合があります。

### 2 共済目的の種類

加入できる共済目的は、「水稲(子実の収穫を目的としたものに限りませう。）」、「陸稲」及び「麦(子実の収穫を目的としたものに限りませう。種類は秋播小麦、秋播二条大麦、秋播六条大麦、秋播はだか麦)」です。

### 3 加入方式と共済金額(補償額)

引受方式と補償割合(平年の収穫量・生産金額のうち農業共済が補償する部分の割合)を加入者が選択することができます。引受方式のうち「全相殺方式」、「水稲品質方式」及び「麦災害収入共済方式」は一定の条件を満たす方だけが選択できます。引受方式ごとの補償割合は次のとおりです。

一筆方式(平成33年産で廃止)・・・7割、6割、5割

半相殺方式・・・・・・・・・・8割、7割、6割      水稲品質方式・・・・・・・・・・9割、8割、7割

全相殺方式・・・・・・・・・・9割、8割、7割      麦災害収入共済方式・・・・・・9割、8割、7割

地域インデックス方式・・9割、8割、7割

一筆方式、半相殺方式及び全相殺方式の共済金額(共済事故があった時の最高補償額)は、加入申し込みのときに加入される共済目的の種類等ごとに、単位(1kg)当たり共済金額に引受収量を乗じて得た金額です。

水稲品質方式及び麦災害収入共済方式については、過去一定年間の出荷データに基づいて算出した基準生産金額に、100分の60を下限として加入される方が選択した補償割合(100分の90、100分の80又は100分の70)を乗じた金額を上限として加入される方が申し出た金額です。

また、青色申告書及びその関係書類を用いて全相殺方式、水稲品質方式又は麦災害収入共済方式に加入する場合は、その関係書類等より算出した基準単収をもとに補償割合と加入者が選択した単位当たり共済金額によって計算した金額です。

#### (1) 単位当たり共済金額

単位当たり共済金額は、毎年、農林水産大臣が告示します。加入者は告示に基づき設定された単位当たり共済金額のうちから申し出により選択します。

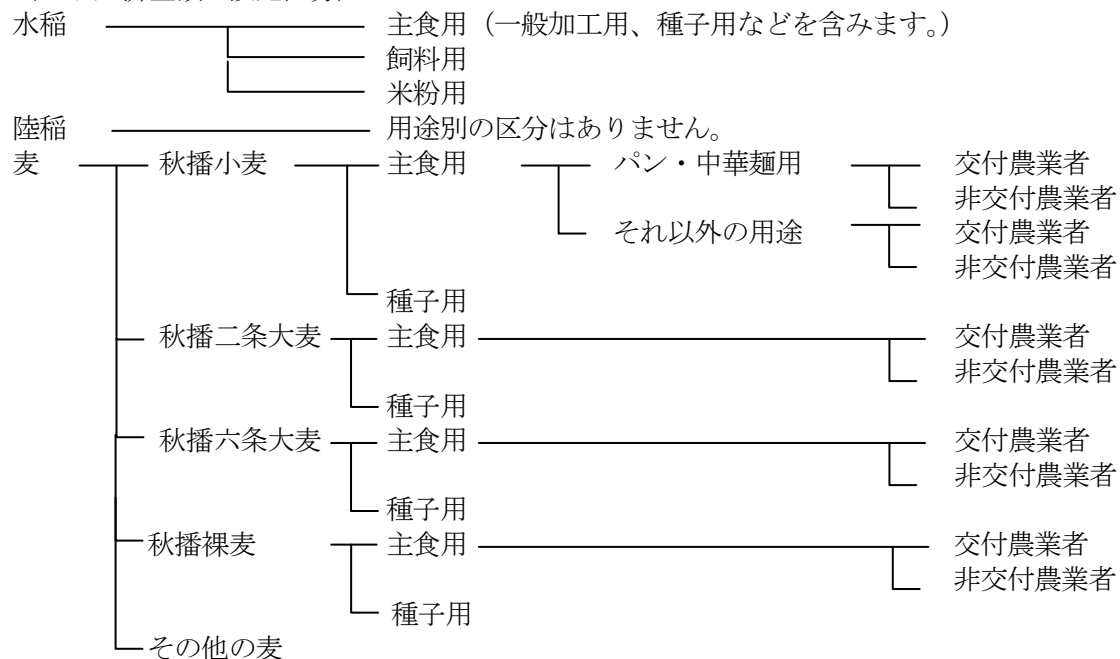
「水稲」の単位当たり共済金額は、用途別(主食用(一般加工用、種子用などを含みます。)、飼料用、米粉用の別)に選択します。

「麦」の単位当たり共済金額は、麦の種類別(秋播小麦、秋播二条大麦、秋播六条大麦の別)に用途別(主食用(小麦についてはパン・中華その他の別に細分されます。)、種子用の別)に設定され、主食用についてはさらに経営所得安定対策の畑作物の直接支払交付金の数量払交付金(以下「数量払

交付金)を受けようとする農業者(以下「交付農業者」とそれ以外の農業者(以下「非交付農業者」)の別に設定された中から選択します。

「陸稲」の単位当たり共済金額は、陸稲として農林水産大臣が告示した中から選択します

〈単位当たり共済金額の設定区分〉



**【注意！】** 「麦」について、「交付農業者」として単位当たり共済金額の選択を申し出した加入者が、後日要件を満たさない等により数量払交付金を受けられないことが判明した場合は、「非交付農業者」に適用される単位当たり共済金額を適用し、引受変更することになります。

## (2) 引受収量

引受収量は次のように算定し、組合が設定しています。

### ① 一筆方式

引受収量 = (耕地ごとの10a当たり収穫量 × 耕地ごとの引受面積) × 補償割合

※ 圃場1筆ごとに計算しています。

### ② 半相殺方式

引受収量 = (耕地ごとの10a当たり収穫量 × 耕地ごとの引受面積)の合計 × 補償割合

### ③ 全相方式

引受収量 = (耕地ごとの10a当たり収穫量 × 耕地ごとの引受面積)の合計 × 補償割合

### ○ 10a当たり収穫量(基準収穫量)

10a当たり収穫量は平年的な収穫量で、県平均が農林水産大臣から、組合平均が県知事から毎年通知されます。

組合では耕地ごとの圃場条件、栽培管理等を調査して、耕地ごとの収量等級を設定し、組合平均が県知事から通知される10a当たり収穫量の範囲内になるように定めています。

なお、「水稲品質方式」及び「麦災害収入共済方式」にかかる10a当たり収穫量は、加入される方ごとに過去一定年間の出荷データから算定します。

また、青色申告書及びその関係書類を用いて全相殺方式、水稲品質方式又は麦災害収入共済方式に加入する場合の基準収穫量については、青色申告書及びその関係書類等により収穫量を把握し、最近5か年中中庸3か年を平均した数量となります。

※基準収穫量には係数が設定されており、うるち米を100とした場合、みやこがね(もち米)は94%、飼料用米は105%、直播栽培は85%、無化学合成米は80%となります。

④ 地域インデックス方式

引受収量＝（統計単位地域ごと耕地ごとの 10a 当たり収穫量×統計単位地域ごと耕地ごとの引受面積）の合計×補償割合

○統計単位地域ごと耕地ごとの 10a 当たり収穫量

地域インデックス方式の引受における統計単位地域ごと耕地ごとの 10a 当たり収穫量は統計単位地域（農林統計の作柄等を公表する単位）ごとの最近の生産単収の平均(5 中 3)で算定される収穫量です。

農林統計で作柄統計を公表する単位は、作物ごとに県単位、市町村単位、市町村別田畑別と異なります。

また、秘匿措置等で情報が公表されない場合は、順次公表単位の区域を拡大します。

作物名	地域インデックス方式の統計単位地域	統計公表単位			
		市町村別田畑別	市町村別	県別	全国
水稻 (主食用米・米粉用米)	市町村別	×	◎	○	○
陸稲	県別	×	×	◎	○
麦 (小麦・六条大麦・二条大麦・裸麦)	市町村別田畑別	◎	○	○	○

※基本的に◎の統計公表単位を用いて算定します。

(3) 基準生産金額（「水稻品質方式」、「麦災害収入共済方式」）

基準生産金額とは、加入者の平年的な麦の生産額（いわゆる販売収入額）であり、補償の限度額である共済金額の算定の基礎となるものです。加入者ごとに過去一定年間（原則として5か年間）の出荷データ、青色申告書及びその関係書類等により、次のように算定しています。

$$\text{基準生産金額} = \left\{ \begin{array}{l} \text{過去一定年間の} \\ \text{産地別銘柄ごと} \\ \text{出荷規格ごとの} \\ \text{10 a 当たり収穫} \\ \text{量} \end{array} \right. \times \left\{ \begin{array}{l} \text{産地別銘柄} \\ \text{ごと出荷規} \\ \text{格ごとの kg} \\ \text{当たり価額} \end{array} \right. \times \left\{ \begin{array}{l} \text{産地別銘} \\ \text{柄ごとの} \\ \text{引受面積} \end{array} \right. \text{の合計} \text{の合計}$$

4 共済責任期間(補償期間)

共済責任期間（補償期間）は、次のとおりです。

水稻 …… 本田移植期（直播をする場合にあつては発芽期）から収穫をする時までです。

収穫とは、通常の圃場乾燥期間も含まれます。

陸稲 …… 発芽期から収穫をする時までです。収穫には、通常の圃場乾燥期間も含まれます。

麦 …… 発芽期（移植をする場合にあつては移植期）から収穫をする時までです。収穫には、通常の圃場乾燥期間も含まれます。

5 自動継続特約

農作物共済加入申込時に自動継続特約申込書を提出することにより、翌年以降の年産の当該農作物共済の申し込みがあったものとする旨の特約を付することができます。

6 共済事故(共済金支払対象事故)

共済責任期間中に発生した損害で補償の対象としている事故（以下「共済事故」といいます。）は、次のとおりとなっています。なお、水稻品質方式及び麦の災害収入共済方式は、品質の低下に伴う生産金額の減少もあわせて対象となります。

- (1) 風水害、干害、ひょう害、冷害、凍霜害、暖冬害、寒害、雪害、雨害湿潤害、冷湿害、土壌湿潤害、地震の害、雷害、噴火の害、地すべりの害、その他気象上の原因による災害
  - (2) 火災
  - (3) 病害、虫害
  - (4) 鳥害、獣害
- ※上記以外の事故は対象になりません。

## 7 一筆全損特例

半相殺方式、全相殺方式、水稻品質方式、麦災害収入共済方式及び地域インデックス方式加入者の一筆の全損耕地に適用される共済金算定時の特例です。

各方式の共済金算定方法で計算した共済金と全損(収穫皆無)と判定された耕地について適用される共済金算定方法の特例により算出した共済金を比較し大きい方を共済金として支払います。

特に申し込みの必要はありません。

## 8 一筆半損特例

加入申込の際、引受方式の選択と併せて一筆半損特例を付すことで、半相殺方式、全相殺方式、水稻品質方式、麦災害収入共済方式及び地域インデックス方式加入者の一筆の半損以上全損未満耕地に適用される共済金算定時の特例です。各方式の共済金算定方法で計算した共済金と半損以上全損未満の被害と認定された耕地について適用される共済金算定方法の特例により算出した共済金を比較し大きい方を共済金として支払います。

## 9 共済金の支払額

農作物共済に加入した「水稻」、「陸稲」及び「麦」に、共済責任期間中に共済事故による損害が発生した場合は共済金をお支払いします。共済金の支払額は、次の算式による金額となります。

なお、「麦」について、経営所得安定対策の畑作物の直接支払交付金の面積払(営農継続支払)交付金(以下「面積払交付金」)が当年産の作付面積を対象に支払われることとなったため、麦共済との関係調整がなされ、数量払交付金を受ける交付農業者で面積払交付金受給者の麦の実収穫量は実際の実収穫量に面積払交付金に相当する収穫量を加算した収穫量となります。また、損害評価のとりまとめ時の生産金額の算定は、面積払交付金に相当する金額を加算して算定します。

### (1) 一筆方式

支払共済金の額 = 共済減収量 × 単位当たり共済金額

共済減収量 = 引受収量 - 実収穫量

(圃場1筆ごとに計算します。)

\* 実収穫量は、被害申告のあった耕地ごとに調査結果から決定される評価単収を基に算定します。

### (2) 半相殺引受方式

支払共済金の額 = 共済減収量 × 単位当たり共済金額

共済減収量 = (被害耕地の基準収穫量 - 被害耕地の実収穫量) の合計

－ 基準収穫量の合計 × (1 - 補償割合)

\* 実収穫量は、被害申告のあったすべての耕地の調査結果から決定される評価単収を基に算定します。

### (3) 全相殺引受方式

支払共済金の額 = 共済減収量 × 単位当たり共済金額

共済減収量 = (基準収穫量の合計 - 実収穫量) - 基準収穫量の合計 × (1 - 補償割合)

\* 実収穫量は、被害申告のあった加入者ごとに乾燥調製施設等への搬入数量等、JA等への出荷数量等若しくはすべての耕地の調査結果から決定される評価単収を基に算定します。

また、基準収穫量を青色申告書及びその関係書類を基礎として設定している場合には、青色申告書等調査により実収穫量を算定します。

(4) 水稲品質方式及び麦の災害収入共済方式

$$\text{支払共済金の額} = ((\text{※}) \text{ 特定農作物共済限度額} - \text{生産金額}) \times \frac{\text{共済金額}}{(\text{※}) \text{ 特定農作物共済限度額}}$$

(※) 特定農作物共済限度額は、補償割合に応じて次のように算定されます。

$$\text{特定農作物共済限度額} = \text{基準生産金額} \times \text{補償割合}$$

生産金額の算出は出荷数量等調査により品種及び出荷規格別の収穫量により算出します。

また、基準生産金額を青色申告書及びその関係書類を基礎として設定している場合には、青色申告書等調査により生産金額を算定します。

(5) 地域インデックス方式

$$\text{支払共済金の額} = \text{共済減収量} \times \text{単位当たり共済金額}$$

$$\text{共済減収量} = (\text{統計単位地域ごとの基準単収} - \text{統計単位地域ごとの当年産の統計単収}) \times \text{統計単位地域ごとの合計面積} - \text{統計単位地域ごとの基準単収} \times \text{統計単位地域ごとの合計面積} \times (1 - \text{補償割合})$$

(6) 一筆全損被害耕地及び一筆半損被害耕地の共済減収量と生産金額の減少額

1) 半相殺方式、全相殺方式、地域インデックス方式の一筆全損被害耕地、一筆半損被害耕地は次のように算定します。

なお、共済金の支払いは加入者単位で損害評価結果をとりまとめた共済減収量と一筆全損被害耕地及び一筆半損被害耕地の共済減収量のどちらか大きい方の共済減収量で共済金をお支払いいたします。

①一筆全損被害耕地

$$\text{共済減収量} = \text{該当耕地の基準収穫量} - \text{該当耕地の基準収穫量} \times (\text{※}) \text{ 全損耕地支払割合}$$

②一筆半損被害耕地

$$\text{共済減収量} = \text{当該耕地の基準収穫量} \times 5 \text{ 割} - \text{当該耕地の基準収穫量} \times (\text{※}) \text{ 半損耕地支払割合}$$

(※) 全損耕地支払割合及び半損耕地支払割合

引受方式	補償割合	全損耕地支払割合	半損耕地支払割合
全相殺方式及び地域インデックス方式	9割	30/100	30/100
半相殺方式	8割		
全相殺方式及び地域インデックス方式	8割	40/100	50/100-20/100×6/7
半相殺方式	7割		
全相殺方式及び地域インデックス方式	7割	50/100	50/100-20/100×5/7
半相殺方式	6割		

2) 水稲品質方式及び麦災害収入方式の一筆全損被害耕地、一筆半損被害耕地は次のように算定します。

なお、共済金の支払いは加入者単位で損害評価結果をとりまとめた生産金額の減少額と一筆全損被害耕地及び一筆半損被害耕地の生産金額の減少額のどちらか大きい方の生産金額の減少額で共済金をお支払いいたします。

①一筆全損被害耕地

$$\text{生産金額の減少額} = \text{全損耕地の耕地別基準生産金額の合計} \times (\text{※} 3) \text{ 全損耕地補償割合} - (\text{※} 1) \text{ 移植不能耕地調整額}$$

(※ 1) 移植不能耕地調整額

共済限度額割合が 90% の場合	当該耕地の耕地別基準生産金額の合計 × 35/100
共済限度額割合が 80% の場合	当該耕地の耕地別基準生産金額の合計 × 30/100
共済限度額割合が 70% の場合	当該耕地の耕地別基準生産金額の合計 × 25/100

## ②一筆半損被害耕地

生産金額の減少額＝半損耕地の耕地別基準生産金額の合計×（※3）半損耕地補償割合  
－（※2）半損耕地生産金額の合計

（※2）半損耕地生産金額＝半損耕地の耕地別基準生産金額×1/2

（※3）全損耕地補償割合及び半損耕地補償割合

引受方式	補償割合	共済限度額割合	全損耕地補償割合	半損耕地補償割合
品質方式及び災害収入方式	9割	90%	70%	70/100
	8割	80%	60%	50/100+20/100×6/7
	7割	70%	50%	50/100+20/100×5/7

## 10 損害発生のお知らせ

加入した「水稻」、「陸稲」及び「麦」に損害が発生したときは、遅滞なく組合に損害発生通知をしてください。損害発生通知が遅れ、事故状況の確認ができない場合には共済金が支払われなくなることがあります。

各方式で次の被害が見込まれる場合は速やかに損害発生通知（被害申告）を行ってください

- （1）一筆方式、半相殺方式、全相殺方式は基準収穫量に対して支払開始損害割合を超える減収が見込まれるとき  
なお、半相殺方式は被害申告時に被害申告する筆ごとに見込収穫量（見込単収）を申告します
- （2）水稻品質方式、麦災害収入共済方式は、収穫量の減少、規格等級の低下による品質の低下が見込まれるとき
- （3）地域インデックス方式は、引受耕地に被害が発生すればその旨を通知する
- （4）半相殺方式、全相殺方式、水稻品質方式、麦災害収入共済方式、地域インデックス方式は、全損被害耕地（収穫皆無耕地）も被害申告します  
なお、一筆半損特例を付した場合は半損以上の被害耕地も被害申告します

## 11 損害防止の義務

加入した「水稻」、「陸稲」及び「麦」について、通常の管理、損害防止に努めてください。これらの努めを怠った場合は、損害の額から防止・軽減できたと認められる額を差し引くことがあります。また、必要な処置について組合から指示する場合があります。

## 12 共済金が支払われない場合

共済責任期間中に発生した共済事故による損害であっても、次のような場合には、共済金をお支払いできないことがあります。

- （1）加入者が損害防止の義務を怠ったとき
- （2）加入者が損害防止義務の指示に従わなかったとき
- （3）加入者が損害発生のお知らせを怠り、悪意若しくは重大な過失によって事実と反する通知をしたとき
- （4）加入者が悪意若しくは重大な過失によって加入申込書兼変更届出書に不実の記載をしたとき
- （5）加入者が加入している水稻、陸稲、麦についての栽培方法を、加入した区分に適用されるものに係る栽培方法以外のものに変更した場合、その変更の結果、通常生ずべき損失の額
- （6）加入者が植物防疫法の規定に違反したとき
- （7）共済事故発生の際の調査を妨害したとき
- （8）共済掛金等を払込期限までに納入しないとき

## 13 告知義務違反による共済関係の解除

加入申込の際に、悪意若しくは重大な過失により事実の告知をしなかったときや、不実の告知をしたときは、共済関係を解除することがあります。

## 14 共済掛金不払いによる共済関係の解除

契約成立後であっても、正当な理由がないのに払込期限までに共済掛金が納入されない場合共済関係を解除することがあります。

## 15 重大事由による共済関係の解除



次に掲げる事由がある場合には、共済関係を解除します。

- (1) 共済金の給付を行わせることを目的として損害を生じさせたとき又はさせようとしたとき
- (2) 共済関係に基づく共済金の請求について、詐欺を行い又は行おうとしたこと
- (3) その他、共済関係の存続を困難とする重大な事由が生じたとき又は判明したとき

#### 16 経営所得安定対策の畑作物の直接支払交付金の交付申請の有無の確認

##### (1) 交付申請の有無の確認

「麦」について、加入者が選択を申し出た単位当たり共済金額について、その適用にあたり確認するため関係部署（市町村、JA、東北農政局等）へ経営所得安定対策の畑作物の直接支払交付金の数量払の交付申請の有無等を照会いたします。

##### (2) 共済金の返還を求める場合

- ① 「麦」について、共済金の支払い後に交付農業者としての単位当たり共済金額を適用した加入者が非交付農業者であることが判明した場合は、非交付農業者に適用される単位当たり共済金額を適用し引受変更するとともに、支払いした共済金の返還（全部又は一部）を求めることがあります。
- ② 「麦」について、交付農業者として引受した加入者で数量払のみの交付申請を行った旨の申告があったにもかかわらず、面積払交付農業者であることが判明し共済金が過大に支払われていたときは、支払いした共済金の返還（全部又は一部）を求めることがあります。なお、このような事例が複数年続いた時やその他悪意または重大な過失によって不実の申告をしたと認められるときは、共済金の全部または一部についてお支払いできないことがあります。

#### 17 共済責任期間中の通知義務

共済責任期間中に加入申し込みのときと異なる次のような事実が発生した場合には、速やかに組合に連絡願います。加入者がこの義務を怠った場合、共済金がお支払いできなくなる場合や契約を解除・失効しなければならない場合があります。

- (1) 加入している「水稲」「陸稲」「麦」を譲渡したとき、収穫適期前に刈取り、抜き取り若しくは鋤き込んだとき又はしようとするとき
- (2) 加入している「水稲」、「麦」についての栽培方法を加入した区分に適用されるものに係る栽培方法以外のものへ変更したとき

#### 18 その他の重要事項

農業共済制度は、行政庁の指導・監督のもと、広く危険分散を図るなど共済金の確実な支払いができる仕組みを採っておりますが、組合の財務状況によっては、お支払いする共済金の金額が削減されることがあります。